

えが お



パソコンや携帯で「伊那市えがお」と検索するか、下のQRコードから入ると、令和4年度分からカラーでご覧いただけます。



令和6年度
No. 4
11月1日

高遠小学校「お囃子クラブ」

高遠小学校の「お囃子クラブ」は、平成11年に発足してから、これまで25年の長きにわたり活動が受け継がれてきました。今年度は、3～6年生の児童46名が参加して、6月から毎週水・金曜日の放課後に練習を続けてきました。



桜奏会(おうそうかい)代表の北條さん(右)とコーディネーターの高橋さん(左)



三味線(しゃみせん)



横笛(よこぶえ)



太鼓(たいこ)



鼓(つづみ)



大皮=大鼓(おおかわ=おおづつみ)



さて、「灯籠祭り」の当日になりました。少し暑かったですが秋晴れの下で、午後二時半過ぎに、大人の連に続いて、「鉾持神社」を出発しました。行きは「本囃子」、帰りは「帰る囃子」という往復で違った曲目を演奏します。法被を着て颯爽と演奏して歩く児童の皆さんの姿は、とても格好良かったです。この後、「伊澤修二記念音楽祭」へも出演して、お囃子クラブは、伝統文化を受け継ぐと共に、様々な行事に参加して、地域に貢献しています。

講師の先生方は、江戸時代から続く高遠囃子の保存に取り組んでおられる「桜奏会(おうそうかい)」と「高遠囃子保存会婦人部」の皆さんで、この日は、全員で9名の方が来校して、楽器ごとに分かれて、指導をしていただきました。すでに「城下まつり」の時に、移動のないその場でおこなう演奏は経験しましたが、今度の「灯籠祭り」では歩きながら演奏するため、この日は、列をつくり歩いて演奏する練習を繰り返しました。児童の皆さんは時間いっぱい真剣に練習に取り組み、お囃子の間の「はし、おー」という元気いっぱいのかけ声もホールに響き渡りました。練習は40分ほどで終わり、あと2回の練習で「灯籠祭り」の本番を迎えることとなりました。



「ようこそバリアcaféへ、二足歩行者ウォーカーの体験」の視聴



参加体験型の人権学習ということで、グループで意見交換をしました

近年、古文書の解説が進み、差別を受けてきた人たちは、平安時代の頃から「ケガレ」を払う特別な力を持つ人たちとして畏敬の念で見られたことと同時に、自分たちと違った存在だと遠ざけられ差別されていたこと、その人たちは江戸時代になっても、身分統制のために利用され厳しい差別を受けていたことなどが分かってきたということです。また、同和教育に携わる先生方や被差別部落にルーツのある方との出会い

人と違った立場になるとどんな気持ちになるか、「その出来事の背景にあることは何か」、「見方を変えるとどんな世界が見えてくるか」といったことを考えたり話し合ったりすることを通して、それぞれの状況で不当な差別を受けている少数の人たちの気持ちに寄り添う体験をしました。後半は、個別の人権課題の中から、「部落問題」について、「部落差別の歴史」、「部落差別に向き合うこと」、「今の問題であること」といった内容でお話を聞きました。



講師の南波先生

美篤公民館の人権同和教育講座が、講師に南信教育事務所生涯学習指導主事の南波秀治先生をお迎えして、開かれました。前半は、「参加体験型人権学習」として、ゲームや写真、新聞記事、動画など様々な資料を通して、「自分だけ

美篤公民館人権同和教育講座 「当事者意識を高めるために」 「部落問題を通して」



石段を登り、拝殿に到着しました。この中に本殿があります。

「本殿」を見学し、説明を聞いたり、スケッチをしたりしました。見事な竜や獅子、花鳥等の彫刻が施された「本殿」は、諏訪神宮寺の宮大工棟梁、白鳥弥四郎が

今回の取材は、長藤地区にお伺いしました。児童の皆さんは、学校から徒歩で30分ほどかけ、最後には急な山道や石段を頑張って登りきって、「五郎姫神社」の「拝殿」に到着しました。講師の田中さんが拝殿の鍵をあけ、みんな中で中に入り、



区長会長の宮沢さん(右)と講師の田中さん(左)です。

この行事は平成21年からはじまり、各地区の区長会長さん・分館長さん・育成会長さんたちが計画して実施されるもので、今年度、藤沢地区は「建設機械について」、長藤地区は「五郎姫神社について」、三義地区は「小豆坂トンネルにまつ

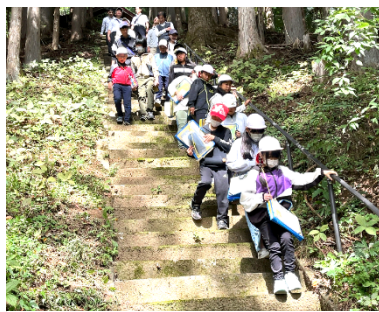
高遠北小学校では、児童の皆さんが、藤沢・長藤・三義の三地区に分かれ、自分の地区の自然や歴史・文化、産業について学習する「地域を学ぶ日」が行われました。

高遠北小学校「地域を学ぶ日」



が、南波先生自身が部落差別に向き合っていくきっかけとなったというお話も聞きました。最後に部落差別の問題は今日も存在し、ネット上で様々な差別事案が流されている中、「寝た子を起こすな」は通用せず、「寝た子はネットで間違えて起こされる」状況があるため、「正しく起こす」ための学びが必要だというお話をお聞きし、聞いたことを鵜呑みにせず、正しい知識を学び行動する大切さを改めて認識した講演会でした。

十年の歳月をかけて作り、天保十一年（一八四〇）に建立されたもので、現在は市の指定文化財です。この学習を計画していただいた地域の方々のおかげで、普段見ることができない身近にある貴重な文化財を見学することができ、児童の皆さんの中に、「近くにこんな立派な物があるんだな。」という地域を誇りに思う気持ちが育っていく、大切な行事であると思いました。



急な石段を気をつけて降ります。



見事な本殿の彫刻



記念撮影をしました。前列右端は分館長の高嶋さんです。



真剣にスケッチをする児童の皆さん

手良小学校「クラブ活動」

手良小学校のクラブ活動は、それぞれ地域の方が講師として指導をしています。

「モルッククラブ」の講師は、竹中公民館長さんです。この日は用事があり不在でしたが、子どもたちは自分たちの力でゲームを進めることができるようになってい

ました。「理科クラブ」では、これまでペットボトルロケット、空

気鉄砲、花粉の



モルッククラブの様子

西箕輪小学校「クラブ活動」

西箕輪小学校では、11のクラブ活動うち、6つのクラブで地域の方が講師をしています。

講師の先生で、一番長く指導をしているのは、

「茶道クラブ」の重盛さんで、なんと20年にもな

るそうです。公民館の活動として文化庁の伝統文

化を次世代につなぐ事業への応募をきっかけに、

児童からの要望で学校のクラブでも講師を始める

ようになったそうです。「重盛さんは、子どもたち

に元気をもらっています。」と嬉しそうにお話され

ていました。その他のクラブでも、5年、7年など



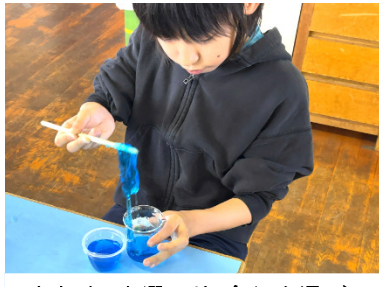
読みれを読む牧田さん



理科クラブ講師の神林さん



子どもたちと真剣勝負です。



ホウ砂・洗濯のり・食紅を混ぜて、スライムができました。

観察などをおこない、この日はスライムを作った楽しみました。「百人一首クラブ」は、公民館主催の百人一首大会に参加する予定で、活動が地域へと広がり、小学生が地域活動に貢献しています。講師の先生方は、家庭科学習の支援、放課後学習の指導、読み聞かせボランティア、公民館の図書館職員の方など、クラブ以外でも日頃から児童の皆さんとのかかわりがあり、お互いに知り合い、仲の良い関係でつながっている皆さんです。

美簗小学校「秋の桜並木活動」

美簗小学校では、4月と10月の年2回、三峰川沿いの桜並木活動をしています。春は、4、6年生が活動し、今回の秋の活動は6年生43人が、担当する木の健康状態の観察や枝の広がりや幹の太さの測定をしました。

川沿いの堤防には、江戸時代から水害時の対応のためにたくさんの木が植えられていました。その中でも桜は、地域の人たちの楽しみにもなっていました。昭和28年からはじまった総合開発で



【マレットゴルフクラブ】この日はご都合でお見えになりませんでしたが、講師は高井さんです。学校の横にマレットゴルフ場があります。



【百人一首クラブ】読み手は講師の唐澤さんです。



【バドミントンクラブ】サンビレッジで講師の鈴木さん、倉澤さんも楽しんで、指導されていました。



【茶道クラブ】講師の重盛さんの周りで、児童の皆さんが楽しそうにお茶をたてていました。



【将棋クラブ】講師の白鳥さんがトーナメント表を作ってきてくださり、そこに児童が名前を書き込んでいました。



【書道クラブ】講師の山岸さんは、一人一人に丁寧に指導をされていました。

長期にわたり指導していただいていることで、学校の様子がよく分かり、児童と楽しく活動をしなから、西箕輪小学校を支えていただいています。



枝の端から端の長さを測り、枝の広がりの様子を調べました。



地域の方といっしょに、幹の太さを測定して、記録しました。

切られてしまいました。そのことを学習した平成6年に4年生だった児童たちが「昔の桜並木を復活させたい」と取り組みをはじめ、市や地域の人の協力を得て、数年かけて56本の桜を植樹し、現在まで保護活動が受け継がれてきています。この日は、区長さんをはじめ、育成会やPTA等多くの地域の方々がいっしょに活動しました。区長会長の小林さんからは、この活動を始めたクラスが、美簗の井水の学習から堤防の学習へと発展し、さらに桜並木の活動に至った経過をお聞きしました。また、桜守の赤羽さんからは、今年の桜の健康状態や美簗の桜並木活動が活発に行われてきたこと等をお聞きしました。6年生の皆さんは、友だちと協力しながら測定に取り組み、春より太くなった幹の成長に感じっていました。6年生にとっては最後の活動になりましたが、桜並木活動は、地域への想いを育む地域ぐるみの素晴らしい活動でした。

「伊那市人権同和教育講演会」のご案内

演題 「全盲の僕が弁護士になった理由」

講師 大胡田 誠さん（弁護士）

日時 令和6年11月9日（土）

午後1時半～3時（開場 午後1時）

会場 伊那市生涯学習センター6階

※入場無料、申し込み不要、先着200名（二シザワいなっせホール）



詳しくはコチラから